

## 『ハマのドン 横浜カジノ阻止をめぐる闘いの記録』を読む

写真の新書を一気に読んだ。「ハマのドン」藤木幸夫氏という人物を軸にして、横浜IRカジノ誘致阻止の舞台に鋭く迫る。カジノや政治に関心ある多くの人に読んでもらいたい一冊だ。

本書の内容を紹介するより、大阪「夢洲」IRカジノ誘致に参考になりそうなところを抜粋して紹介したい。

藤木さんの動きを受けて、当然、呼応する反応も出てくる。その一人が、建築デザイナーの村尾武洋氏だった。村尾氏は、ニューヨーク在住でカジノの設計を数多く行ってきた。カジノ側にいながら、協力を申し出たのだ。村尾氏は、日本進出を狙ったシーザーズ・エンターテインメントなどアメリカの全土の名だたるカジノの設計を30件近くもこなしてきた。会見で開口一番、こう言った。

「僕らが（カジノを）デザインする時、そこから一步も出ないようにデザインするわけですよ。だから街に還元なんてあり得ない。あつたら僕らの負けですから。カジノをわざわざ日本に作る必要性はないということを、ただ単に伝えたくて」

村尾氏が明かしたカジノの手口は、想像はしていても、驚きの内容だった。例えば、カジノの位置について。カジノを真ん中に置いて、そこから分岐してレストラン、ブティック、コンサートホール、ホテルのロビーと、どこからでもカジノを通るように作るそうだ。お客さんがカジノに入るように、しかも外に出ないように、自身がデザインしているのだから、微に入り細に入り説明が詳細だ。

大阪はどうするのか。MGM側の要望で、計画地の「夢洲」の液状化対策や土壤汚染対策など約790億円もの莫大な費用を大阪市が負担することになった。カジノ設計者の村尾氏に大阪市の負担のことを聞くと、こう意見した。

「カジノ側が本来出すべきでしょう。自治体が出すんじゃなく、カジノがやりたいんだつたら出さないよ、逆でしょう。こっち（米国）では、法律を緩和してあげるといふのはありますけど。例えば道を変えるのに楽なようにとか、許可を出しやすいようにしてあげるといふのはありますけど。税金が入るので。でも、自治体がお金を出してインフラ整備をするといふのはないですよ。自治体はその軟弱な土地を直して、カジノさんが入っていらつしゃるので、仕事をやりやすいようにしてあげましようなんて、考えられないですよ。頭おかしいですよ。その日本の政治家、手玉に取られてるつてやつですよ」民設民営で経済振興と言いつながら、結局は税金をつぎ込んで、さらなる負担も生じかねない。国のカジノ構想をめぐる歪んだ構造を象徴するような話だ。

カジノの設計をしてきた建築デザイナーの村尾さんの指摘は参考になった。

(2023年5月27日)

